

# 学生が中心の地方創生（成果と課題）

黒田秀雄

（一般財団法人日本総合研究所）

## 1. はじめに

最初に「日野町魅力プロジェクト」の現地での活動状況の概要を述べると次の通りである。  
このプロジェクトの中心地となった日野町は、鳥取県日野郡の中山間地にある人口約3300人の町である。東京からの現地までの工程は、羽田空港から米子空港に飛び、その後JR米子駅から特急に約20分乗車、そして根雨駅で下車すると漸く日野町に到着する。（日野町は、日本中のどこにでもある中山間地の過疎化した町の一つである。日野町の所在は、下記の地図の通りである。図表1）その日野町を舞台として、2016年から2018年までの3年間、「日野町魅力化プロジェクト」を現地の皆様方のご協力のもとで運営・実施した。最初の2年間は4泊5日、最後の年は2泊3日で、都会と地元（鳥取・島根）大学の大学生が、日野町のホストファミリー宅に宿泊。日野町「地域おこし協力隊」メンバーの皆さんの協力を得ながら、学生たちが日野町で滞在する中からの様々な体験・経験を通じて、日野町を調査・研究する。その活動の中からの若者たちの気づきや発見を、最終日に、お世話になった日野町の皆様方の前で発表するプログラムである。参加学生数は、3年間でのべ32名の大学生・大学院生となった。（参加人数の内訳は図表2の通り。）

図表1：鳥取県の日野町について



図表2：参加学生数の表

	合計	内訳		うち 留学生
		男性	女性	
2016年	12	4	8	4
2017年	11	7	4	0
2018年	9	4	5	1
合計	32	15	17	5

図表3：学生の活動状況



(1) ラフティング

(2) 農業体験

(3) 金持神社

(4) 発表会

## 2. 学生の提案内容と実現した魅力化策（2016年、2017年、2018年）

最初の2年間、2016年、2017年「日野町魅力化プロジェクト」では、日野町を調査する上での視点は、「産業」「観光」「生活」の3つの点で研究・調査し、日野町の魅力を探っていった。学生たちには、東京での事前勉強も重要ではあるが、4泊5日、日野町に滞在する中での日野町の自然環境に触れて感じることも重要であるので、その点を大事にするようにと話をしていた。最後の年の3年目の視点は、農業全般から魅力化を考えることにした。滞在期間が2泊3日の短期間であったので、東京での事前勉強に対しては、少し力が入ったことも事実である。3年間で学生たちは日野町に対して10項目の提案をし、5項目の提案内容が、日野町の「地域おこし協力隊」や日野町の皆様のご尽力により

実現することが出来た。学生たちは自分たちの提案が、現実に日野町で実現されることについては、大変喜ぶとともに活動に対する自信もつき、夏休みの大きな思い出にもなったのである。学生たちの年度ごとの提案内容は、下図の図表4の通りである

図表4：3年間で大学生たちが提案・実現した「日野町魅力化策」

2016年提案からの実現内容	
1	インターネットの環境整備(町に予算が計上され環境整備がされた)
2	ひまわり迷路(休耕田の活用)2017年開始・2018年実施中
3	子育て支援策(未実施)
2017年提案からの実現内容	
1	観光用サイクリング用自転車(日野県立高校の未使用自転車)2018年から町へ譲渡され、現在活躍中
2	おしどり婚姻届け・2017年「いい夫婦の日」から実施中
3	日野町のブランド化の為に SNS の活用(未実施)
4	ひのサボ(廃棄野菜の活用した関係人口への取り組み策)(未実施)
2018年提案内容	
1	日野町での観光・ブランド化(学生たちの SNS 活用方法からの提案)
2	農業の収益アップ戦略、空き屋(古民家)の活用(大学生向け)、日野町のイメージカラーとキャッチコピー作り(黄色)
3	週末農業(都市潜在型農業)、空き屋(古民家)の有効活用

図表5：2016年から2018年の3年間で実現した提案内容の写真



(1) ひまわり迷路



(2) サイクリング



(3) おしどり婚姻届け



(4) 農業の収益アップ作戦  
敦賀君の活躍

### 3、東京での「日野町魅力プロジェクト」の情報発信とその成果

大学生たちは、現地・日野町では、大いに能力と様々な力を発揮した。本プロジェクト「大学生が中心の地方創生」を東京の中心地でプレゼンテーションを開催した場合は、東京で働く社会人や地方創生に関係した方々からはどのような反応があり、その結果を受けてさらに学生たちの成長に結びつけることが出来ないだろうかと思っていた。そのような中で、本プロジェクト終了から何か具体的な施策はないかと考えていた。

2016年12月「地域おこし協力隊」を教育指導する「地域開発センター」の椎川理事長様から、日野町の「地域おこし協力隊」の中山様とともに「日野町魅力プロジェクト」に参加した学生のプレゼンテーションを開催したい旨のご依頼があった。学生たちは、中山様とともに、社会人の大人の前で、気後れもせず、「日野町魅力プロジェクト」のプレゼンテーションを堂々と実施した。学生たちのこのような著しい成長には、担当教員である私も大変びっくりし、また嬉しく思った。

次に大手町には「3×3LAB」という三菱地所の社会貢献施設がある。2017年と2018年の2年間は「3×3LOB」の担当者から学生たちの活動への理解を受けることができたため「学生が中心の地方創生」の活動である「日野町魅力プロジェクト」の発表会を開催することが出来た。

図表6：「3×3LOB」での「大学生が中心の地方創生」プレゼン開催状況



2017年



2018年

2017年、2018年に開催した「大学生が中心の地方創生」の会に参加した社会人からの反応や感想は次の通りである。「大学生の行動力、真剣にプロジェクトに取り組む姿勢が素敵で、若い人の可能性を感じた。」「大学生ならではの視点で地方を捉える点や課題認識などが新鮮だった。」などの好

意的な意見が多かった。参加学生たちは、このような意見をプレゼンテーション開催後の反省会で知り、大変喜んでいました。私としては、大学生たちのさらなる今後の成長を期待したいと思った次第である。

#### 4、3年間の「日野町魅力プロジェクト」から見てきたもの（まとめとして）

この企画は、大学の同僚であったプロ棋士（故）安田九段からのご紹介というご縁あって「日野町魅力プロジェクト」に私の担当学生と共に参加し、運営と一緒にさせていただいた経緯がある。安田先生が昨年逝去された後も、この「日野町魅力プロジェクト」に携わることが出来て、今でも大変良かったと思っている。またこのプロジェクトは、主役である大学生、大学生を温かく迎えていただけるホストファミリー、「地域おこし協力隊」の方々、そして、日野町・鳥取県の行政の方々、最後にコーディネーター役としての我々の相互連携協力がなければ運営できないプロジェクトであることは言うまでもない。そこで、このプロジェクトに携わられた皆様のご意見やご感想をまとめとして記載したい。

##### （1）ホストファミリーの皆様

毎回3家族のホストファミリーの皆様、学生の宿泊をお世話いただいた。当初の皆様方のご心配や悩みとしては、①都会の若者への不安（どんな人かわからない）②どのような食事を出してよいかのとの食事について。③自分の家が宿として適しているか。が中心であった。学生たちを受け入れた後での感想としては、①ドライな学生と思っていたが、挨拶のできる礼儀正しい感じの良い学生たちであった。②若い人たちといろいろな話ができて刺激と活力をもらえた。③田舎料理を喜んでもらえた、田舎料理の良さを自分でも再認識ができた。このようにホストファミリーの皆様は、当初は心配や不安があったが、プロジェクトに対する全体的な評価は高く、都会の大学生たちとのコミュニケーションが取れたことも良かったと思う。「ホームステイ後も気にかけて連絡をくれるのが嬉しい」との感想を、翌年に伺うこともできたことは、プロジェクトを維持し継続する上では、大変良かった点である。

##### （2）地域おこし協力隊の皆様

「日野町魅力プロジェクト」は、日野町に所属する地域おこし協力隊のメンバーにとっても、地域おこし協力隊の存在をアピールする上での好材料であることは言うまでもない。1、2回目は4泊5日、3回目は2泊3日で、学生たちの滞在期間には差があるが、いずれの会も地域おこし協力隊が率先して、学生たちの活動を支援していただいた。このことに対しては、改めて深く心より御礼申し上げたい。地域おこし協力隊から見た学生たちの活動に状況への感想は次の通りである。

Aさん：見知らぬ土地、日野町。ここでのビジネスプランを考え、さらにプレゼンする。

しかも、仲間とは初対面。与えられた時間は短い。あまりにも忙しいすぎることはないかと、少し心配もしたが、皆笑顔で頑張っていた点が良かった。

Bさん：様々な大学から集まった学生さんが、お互いのチームを意識し合いながら作ったプレゼン。大事なのは、その絞り出したアイデアを実現できるかというよりも、むしろその熱量を受けて、どう日野町が、そして私たちの意識が変わるのか、だと思いました。

このように、「地域おこし協力隊」の皆様からは、このプロジェクトを、自分自身のこととして捉えて大学生たちの活動について、前向きで建設的なご感想をいただくことができた点も良かった。

##### （3）参加した学生の意見と成長について

初年度は、参加学生の自主性に任せることを中心にしていたために、参加前・参加後に、アンケートを実施して学生たちの変化についての調査をしなかった。2年目以降は、そのアンケートを実施することにした。2年間のアンケートの集計を見ると、「日野町魅力プロジェクト」に参加意識（自分の目的をはっきり考えて）を持って参加した学生諸君の満足度は高かった。特に、ホストファミリーへの感謝の気持ちも非常に高く、都会と地方の交流がうまくいった点が良かったと思えるのである。また、少人数ではあるが、地元の大学生にも参加してもらったことも、都会と地元の大学生の価値観や物の見方の相違点などが交流する中で、意見交換ができ町への提案内容がより具体的なものとなったことが良かった点であった。参加学生の中で、日本人学生2名、留学生2名の感想を選択し、掲載することにする。

##### 1）日本人学生の意見感想

Aさん：「日野町魅力プロジェクト」に参加するにあたり「新しい価値観を培う」という目的をもって

参加しました。事前にこの町を調べているうちにこの町の厳しい現状が分かりました。実際に足を踏みいれてみると、ネット環境の不便さや生活インフラの不便さを痛感しました。それとは、反比例して「人のあたたかさ」を感じたのも事実です。私は、生まれてこのかた首都圏に住んでいますが、今回のこの企画で今まで感じたことのない「新しい価値観」を培うことができました。

Bさん：このプロジェクトに参加する前は、私の実家が田舎だということもあり、実家に帰省した時と変わらない日々を過ごすのではないかと考えていました。実際に参加してみたら、その考え方は違ったなと思いなおしました。今ある資源をどう活用するかということを考え、提案することまではしたことがなく、私にとっては新しい試みでした。この経験で得た思いや価値観を、自分に生かしていけたらと思います。

## 2) 留学生の意見感想

Cさん：日野町は山川が多くて、自然環境がいい。自然が好きな人にとっては、素晴らしいところだ。日野町で生活体験をしたら、意外に日野町の魅力が発見できた。最初、その状況を見ると、びっくりしたが、日本文化の別面を知ることができた。いろいろな話をして、友達ができて、自分も成長した。

Dさん：2泊3日という短い期間でしたが、私にとって大学生活最後の夏休みに、日野町に行く選択して良かったと心から思います。大自然の中で、沢山の優しい地元の方々にお会いする機会が与えられ、また、町のことを思う姿勢に、日野町に対するとっても強い愛を感じました。「百聞は一見に如かず」情報を頭にインプットするだけでなく、実際に足を運んで自分の目で見て考えることが、いかに大切なのかを考え直す機会となりました。

## (4) コーディネーター役としての役割

このプロジェクトは、実施段階では、学生、日野町のホストファミリーそして住民の方々、日野町の「地域おこし協力隊」、日野町と鳥取県の行政の担当者、そして私たちコーディネーターの全員の協力ができない点では、見た目よりはなかなかハードルの高いプロジェクトである。ハードルの高いプロジェクトを3年間企画開催することができたことは、関係者の皆様方のご協力のお陰であることを改めて感謝申し上げたい。このプロジェクト主役は、あくまで都会の大学生と地元の大学生のコラボレーションによる対象地域の調査研究・発表である。学生たちの成長が、大きく見られる点については、(故)安田先生が、次のように述べておられたことを、最後にまとめとして記載したい。

(故)安田先生曰く

「日野町魅力プロジェクト」で、私が一番楽しみにしていたのは、学生たちが日野町民とのふれあいの中で、どのように成長していくのかを間近で見られることでした。「ウオシュレットが無いと無理」「虫がだめ」と言っていた男子学生たちの変化は圧巻でした。都会の生活とはかけ離れた不便さですが、人間愛あふれる日野町の方がたにふれ、都会では味わうことが出来ない体験をする中で、顔の表情がドンドン変わっていきました。学生にとって、このような貴重な体験は今後の人生において素晴らしい宝になることと思います。町民の方々にとっても、若者発想やエネルギーを得ることでしょう。この繋がりが発展し、より良い地域や社会になることを願っております。

図表7：2016年～2018年の集合写真と安田先生の写真



### 【参考資料】

- (1) 「日野町魅力プロジェクト」参加報告書：2016年9月30日発行
- (2) 2017年「日野町魅力プロジェクト」参加報告書：2017年10月20日発行
- (3) 「日野町魅力プロジェクト」2018実施報告書：2018年9月30日発行
- (4) ダイジェスト版：「大学生が中心となった地方創生」2017、2018（「3×3LOB」での開催記録）